



名古屋(東海地域)には、京都と並んで数多くの長寿企業が存続している反面、新規創業が少なく創業も廃業も少ない土地柄であること、すなわち地域経済の革新が起これにくく、新しいビジネスチャンスへのチャレンジが難しいことを、以前のこの稿で挙げた。その反面、インターネットやスマートフォンによる消費者行動の変化、経営継承と経営革新が同時に求められる中で、さまざま分野で活躍する女性経営者が、数多く輩出しつつある。

名古屋の女性企業家たち(2)

子息が存在しない、あるいは、東京や関西の企業に就職し、事業の将来に困難を抱えて、継承を断念し廃業を決意している企業も少なくない。

関西の企業では、娘に婿養子をとって経営を継承する場合もあるが、名古屋では、例が少ない。その中で、家業を継承しながら、その事業を思い切って転換する、企業は存続しながら、事業は転換するというケースがある。家業の基盤を生かしながら、その延長線上にはない、新しい分野にチャレンジしている女性企業家が存在する。

伊藤由紀氏は、岐阜県海津市の出身で、父は、自動車部品などの金属加工業を営んでいた。伊藤氏は、名の可能性を引き出すことに興味を持つようになつた。生まれ故郷(地元)で何かできないかと考えるようになり、海津市にUターンすることを決意し、まずは、耕作放棄地になつていた祖父の柿畑の手入れから着手した。

畑は、3年間で柿がなるまでに回復したが、古くからの柿の産地であった海津は、高齢化と後継者不足による休耕地が増え、活用の手助けになればと、ジャムや菓子を作り始めた。その頃、健康ブームで、果実酢が流行し始めたが、柿を使った「柿酢」が少ないことに着目し、4年間の試作を繰り返して「ハリヨの柿酢」を完成させた。柿酢は、外部の研究所の分析でもアミノ酸などの健康成分の含有量が高いことが分かり、本格的な製造を開始し事業化させた。

思い切って

家業から転換

東海地域には、製造業の企業が数多く存在し、それらの中には、経営の継承の問題を抱えている企業が、少なくない。特に、男子の



角田 隆太郎 教授 名古屋大学大学院 経営学博士 現代学

古屋大学理学部大学院を修了後、日本電信電話株式会社に入社し、その後、外資系コンサルティング会社に転職し、2007年に独立、経営コンサルティング会社の(株)リバークレスを設立した。

伊藤氏は、東京で会社を運営する傍ら、岡山県の棚田再生など、各地の地方創生事業の取り組みを手伝ううちに「地域資源に付加価値を付けて魅力を生み出すこと、当たり前にあるもの

いまの日本を象徴するような名古屋の経済の停滞を突破し、活性化させるきっかけを、これらの女性たちがつくるのではないかと期待している。元氣な女性に道を拓くことが、名古屋経済を活性化させる。

つのだ・りゅうたろう マーケティング戦略論。神戸大学大学院 経営学研究科博士後期課程単位取得後退学。1953年生まれ。